

【研究費区分】：研究環

【研究代表者所属】：人文科学研究科

【研究代表者氏名】：西山 雄二

【研究代表者氏名フリガナ】：ニシヤマ ユウジ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

福岡麻子 東京都立大学・人文科学研究科・准教授

角井誠 東京都立大学・人文科学研究科・准教授

大貫俊夫 東京都立大学・人文科学研究科・准教授

【研究環組織名】：フランス・ブルガリアとの日本文化比較研究

【研究環 HP】

・なし

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】

新型コロナウイルスの影響でフランス及びおよびブルガリアへの渡航ができず、現地での学術会議が開催できなかった。レンヌ大学で2021年3月に西山がオンラインセミナーを実施しただけにとどまる。海外渡航は中止となったが、レンヌ第二大学、国立東洋言語文化大学との連携は継続されている。また、ブルガリア・ソフィア大学からもダリン・テネフ准教授を国際交流基金によって招聘することになっている。

2020年11月に変更を承認していただき、フランスの研究者らと「コロナと人文知」に関する研究を進めることができた。新型コロナの世界的大流行は人間と自然、人間と社会のあり方を問い直す契機となっており、実際、人文知を援用してこの災厄を考察する機運が高まっている。本研究では、文学や哲学、歴史学、人類学の知見を通じて、コロナ禍において人間の条件がいかにかに露呈したのか、いかにかに変質しているのかを問い、日仏文化比較をおこなう。

西山はフランスの哲学者らの発言を新聞記事にし、レンヌ第二大学の高橋博美先生と意見交換をして、コロナ禍におけるフランスの教育の現状を報告した。また、本学と連携した八丈島民大学講座として、カミュの『ペスト』に関する講演も実施した。今年度は成果報告の論集を準備してきたが、フランスの研究者ら（12名）のコロナ禍に関する論考を翻訳し、日本人研究者ら（12名）がこれに応答する論考を併催するという協同作業になっている。また、2021年春季のOU講座として連続講座「感染症と人文学」が準備されている（4名によるリレー講義）。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月）】

・西山雄二「ジャック・デリダ『偽誓と赦し I』を読む」、脱構築研究会、2020年10月9日。

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月）】

編著

revue ITER, N°2 « Traduire Derrida aujourd'hui », eds. Héctor G. Castaño, Alžbeta Kuchtová et Yuji Nishiyama, 2020. <http://www.revue-iter.org/>

共著

Nuclear Power: A Scientific and Philosophical Issue from 1945 to Today, éd. Orietta Ombrosi, Mimesis, 2020. (Yuji Nishiyama “Thought and representation of nuclear energy in Japan : a comparative analysis of the films *Godzilla* (1954) and *Shin Godzilla* (2016)”, pp. 265-276.)

石田勇治編『ドイツ文化事典』丸善出版、2020年。大貫俊夫、福岡麻子が分担執筆。

金澤周作他編『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年。大貫俊夫が分担執筆。

Yoshiyuki Muroi (Hg.): *Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz. Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo.* (福岡麻子担当論文: *Imitation - Kommunikation - Autofiktion. Zur Problematik des Erzählens im Internetzeitalter am Beispiel von Clemens J. Setz' Schreibexperiment BOT.* p.571- 577.) 2021. 01 Iudicium.

〔論考〕

西山雄二「訳者解説」、ミカエル・フッセル『世界の終わりの後で一黙示録的理性批判』西山雄二・伊藤潤一郎・伊藤美恵子・横田祐美子訳、法政大学出版局。

Yuji NISHIYAMA, « La traduction et le voyage de Jacques Derrida au Japon », *revue ITER*, N°2, 2020.

西山雄二「コロナ禍に直面するフランスの大学」、『大学出版』、No. 123、2020年9月号、1-6頁。

西山雄二「感染症に抵抗する人間—八丈島にてカミュ『ペスト』を読む」、『人文学報』、517-15号、103-124頁。

角井誠「リアリズムから遠く離れて：アンドレ・バザンのアニメーション論」、『アンドレ・バザン研究』5号、2021年、6-35頁。

角井誠「生のドキュメントとしての演技：ペドロ・コスタとリハーサルの方法」、『ユリイカ』2020年10月号、121-129頁。

【発表】

角井誠「アンドレ・バザンとアニメーション」、ワークショップ「アニメーションのイメージとは何か」、早稲田大学、2020年10月。

福岡麻子「新型コロナウイルス禍と文学」、東京都立大学人文科学研究科『人文学報』、2021年3月、p.47-52。

〔翻訳〕

ミカエル・フッセル『世界の終わりの後で一黙示録的理性批判』西山雄二・伊藤潤一郎・伊藤美恵子・横田祐美子訳、法政大学出版局、全386頁。

ジャン＝リュック・ナンシー、ジネット・ミショー「さまざまな形への欲望」、西山雄二・石田奈生訳、『人文学報』、517-15号、77-94頁。

「ブルース・M・S・キャンベル『大遷移—後期中世世界における気候・疫病・社会』より第1章」東京都立大学西洋中近世史ゼミ訳、『人文学報』（歴史学・考古学）、第49巻、112(29)-75(66)。

ロラン・グイド、「機械的リズム：戦間期フランスにおけるガールズ、フォトジェニー、映画」角井誠訳、『人文学報』517-10号、2021年、74-91頁。

【学術会議開催実績報告】

* Yuji Nishiyama, “Au-delà de la violence et la justice : sur la culture japonaise de Yakuza”, Université Rennes 2, 17 mars 2021.

(※国際学術会議にあたるものには「・」を「*」にすること。)

【海外研究者の招聘実績】

・なし

【国際研究環支援や外部資金への応募状況】

・なし

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・西山雄二「ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築」、日本学術振興会科学研究費助成事業・科研費基盤C、2020-25年。

・角井誠「映画演出の美学と政治学：ジャン・ルノワール作品の生成論的研究」、日本学術振興会科学研究費助成事業・若手研究、2019-2023年。

・大貫俊夫「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ」、日本学術振興会・科学研究費助成事業・学術変革領域研究(B)、2020-2023年。

・福岡麻子「同時代の災厄を語る オーストリア現代文学における「死者とのコミュニケーション」」、日本学術振興会科学研究費助成事業・若手研究、2019-2022年。

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

【公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等】

・なし

【研究成果による特許等の産業財産権の出願・取得状況】

(産業財産権の種類、名称、出願番号、出願年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額(円))

・西山雄二(研究代表者)、人文科学研究科、1000千円